

本県農業・農村の10年後のイメージ

平成22年5月13日

本県農業・農村の10年後のイメージ	検討項目
<p>1 食料自給率の向上(現計画では項目なし)</p> <p>① 農業者や農業団体、行政などは、国が戦略作物と位置づけた麦、飼料用米や本県の代表的な露地野菜であるレタスやブロッコリーなどの生産拡大及びその支援に積極的に取り組み、県内向けの農産物の生産が拡大している。</p> <p>② 地産地消について、消費者団体や流通・小売関係企業、教育機関などは自主的な取組みを展開するとともに、生産者や農業法人などは、県内向けの出荷が活発に行われている。これらの取組みにより、県民は、農業への理解を深め、県産品を意識して購入するなど、日常生活の中で自然と地産地消を実践している。</p>	<p>○本県に適した自給率の目標設定</p> <p>○自給率向上に向けての麦類や飼料用米等の作付</p> <p>○県民を巻き込んだ地産地消の展開方向</p>
<p>2 魅力ある経営と多様な担い手づくり</p> <p>① 認定農業者や農業法人等核となる担い手が確保・育成されるとともに、法人化された集落営農組織や核となる農業者が牽引する生産部会はもとより、農作業支援組織の活用や農外企業の参入などにより、意欲のある多様な担い手を中心とした農業生産活動が活発に展開されている。</p> <p>② 他産業従事者のIターンや定年就農、農業法人への雇用就農など多様なルートから就農した新規就農者は、発展段階に応じた体系的な研修制度を活用し、高い栽培技術や経営管理能力を身につけ、安定した農業生産活動を実施している。</p> <p>③ 経営規模が零細で、後継者が不足している地域では、女性や高齢者などに支えられた集落営農組織が育成され、組織内で農作業の受委託や補助労働力の斡旋・調整等を行うなど、農業生産活動が維持されている。</p> <p>なお、高齢者が有する優れた知識や技術の継承が円滑に行われ、みんなで集落を守り育てている。</p>	<p>○核となる担い手の確保・育成</p> <p>○生産部会の活性化</p> <p>○農作業受委託組織等の活動の充実</p> <p>○農外企業の参入促進</p> <p>○新規就農者の確保・育成</p> <p>○発展段階に応じた体系的な研修制度</p> <p>○多様な担い手育成に応じた営農モデル</p> <p>○地域を支える担い手の確保・育成</p> <p>○農作業受委託組織等の活動の充実</p> <p>○女性や高齢者の役割の発揮</p>

<p style="text-align: center;">本県農業・農村の10年後のイメージ</p>	<p style="text-align: center;">検 討 項 目</p>
<p>3 農地やため池などの生産基盤づくり</p> <p>① 生産性の高い優良農地が確保され、核となる担い手への農地の利用集積や農作業の受委託や補助労働力の斡旋・調整等を行うなどにより、農地が有効に活用されている。</p> <p>② 耕作放棄地は、担い手への農地の利用集積や農外企業の参入、第三者への経営移譲など地域の実情に即した対策が講じられ、農業上利用増進を図る必要がある農地において解消されている。一方、都市部において農業利用が困難な農地は、市民農園など幅広い県民の参画と協働によって、その保全と多面的利用が図られているほか、山間部では、山林への転用などが進められている。</p> <p>③ ほ場は、担い手への農地の利用集積や水管理の労力軽減など地域の実情に即した整備が図られ、生産性が高まっている。また、ため池や香川用水をはじめとする農業水利施設は、農業者や行政、土地改良区のほか、地域住民の理解と役割分担のもと、良好な状態で維持され、農業用水の安定的な確保と効率的な利用が行われている。</p>	<p>○農地の利用集積の推進</p> <p>○農作業受委託組織等の活動の充実</p> <p>○耕作放棄地の解消</p> <p>○農外企業の参入促進</p> <p>○耕作放棄地を活用したオリーブ等の生産振興</p> <p>○生産基盤整備の進め方</p> <p>○農業水利施設の維持</p>
<p>4 環境に配慮し、創意工夫を発揮した質の高い農産物づくり (環境に配慮した農業生産)</p> <p>① 温暖化等地球環境の変化に対応できる栽培技術・施設が開発・普及し、一定の品質を保った農産物が生産されている。</p> <p>② 環境に配慮した農業生産は、化学肥料や化学合成農薬を使用しない有機農業やその使用を低減する特別栽培農産物の生産拡大により、エコファーマーの増加とともに、一定の広がりを見せている。</p> <p>③ 稲わら、家畜排せつ物、食品残さなど動植物から生まれた再生可能なバイオマスは、その利活用技術の普及、循環利用や飼料化により、有効に利用されている。</p> <p>④ 農業者は、生産現場において、エネルギーや資材などの使用を可能な限り控え、温室効果ガスの発生を抑制するとともに、中山間地域などで豊富に存在する太陽光や水力、風力等再生可能エネルギーの利用が進んでいる。</p>	<p>○地球温暖化対応技術の開発</p> <p>○有機農業の推進と特別栽培農産物の生産拡大</p> <p>○エコファーマーの増加</p> <p>○バイオマス利活用技術の普及</p> <p>○耕畜連携の進め方</p> <p>○エコフィードの普及</p> <p>○再生可能エネルギーの利用促進</p>

本県農業・農村の10年後のイメージ	検討項目
<p>(新品種・技術・商品の開発と普及)</p> <p>① 競争力のあるオリジナル品種や低コスト・省力・高品質安定栽培技術が開発・普及され、質の高い農産物が効率よく生産されている。</p> <p>② 加工・業務用需要に対応した生産・出荷体制を整備した産地が形成されるとともに、産地などでは、食品産業など民間企業との連携や共同研究のもと、それに適した品種や栽培・流通貯蔵技術、実需者ニーズに即した農産物、地域資源を活用した質の高い新商品が開発・普及されている。</p> <p>③ 農産物の生産から農産物加工品の開発や販売まで手がける生産者が、起業活動や経営の多角化を通じ増加し、規格外品等も活用しながら、安全・安心で、付加価値の高い加工品を生産している。</p>	<p>○競争力のある県オリジナル品種の育成</p> <p>○低コスト、省力化技術の開発</p> <p>○加工・業務用需要への対応</p> <p>○他産業と連携した商品等の開発・販売</p> <p>○加工原料としてのオリーブ等の生産振興</p> <p>○讃岐三畜の加工品開発</p> <p>○農業経営の多角化</p>
<p>5 消費者に軸足を置いた多様な流通・販売体制づくり</p> <p>(多様な生産・流通・販売システム)</p> <p>① 本県のブランド商品は、さぬき特選「K.ブランド商品」認証制度などの活用や「讃岐三畜」を始めとする高付加価値農産物の生産拡大により、実需者ニーズが高まるとともに、消費者からの幅広い支持を受け、安定して高値で取引きされている。</p> <p>② 農産物は、それぞれの特性を踏まえ販売ターゲットを選定した上で、中間物流及び商流の確認と連携強化により販売ルートが開拓・確立され、国内だけでなく、アジアを中心に海外への輸出も拡大するなど販路が拡大している。</p> <p>③ 他産業との連携などにより開発された農産物や商品は、ネット販売など多様な流通・販売システムを介した販売促進により、全国から高い評価を得て、本県農産物のイメージアップに貢献している。</p>	<p>○消費者から支持される農産物のブランド化</p> <p>○讃岐三畜の生産振興</p> <p>○販売ルートの開拓・確立</p> <p>○農産物の輸出</p> <p>○多様な流通・販売システムの構築</p>
<p>6 農産物の安全・安心に向けた信頼性づくり</p> <p>① 農業者や食品加工業者、流通・販売業者は、常に消費者のニーズを把握するとともに、適正な食品表示の徹底に加え、各段階においてトレーサビリティシステムやGAP、HACCPを導入し、徹底したリスク管理のもと、安全・安心な農産物や加工食品を供給している。</p>	<p>○食品供給工程管理の普及・定着</p> <p>○食品表示の適正化の徹底</p> <p>○鳥インフルエンザ対策</p>

本県農業・農村の10年後のイメージ	検討項目
<p>7 多様な農産物の生産</p> <p>① 米麦は、大規模化の進んだ認定農業者や効率的な営農体制が確立された集落営農組織により、本県独自品種など高品質な米麦の生産が安定的に行われ、広く県民に愛用される米や「さぬきうどん」の原料として定着している。特に「さぬきの夢」うどんについては、全国各地から注目されている。</p> <p>② 園芸作物については、若い担い手はもとより、生産部会の意欲的な活動により、産地規模としては小さいながらも、多様な特色のある産地として発展している。中でも、担い手が経営規模の拡大を通じて、産地の中核を担う牽引役となり、付加価値の高い高品質な作物の生産が行われ、香川のブランド力や他産業との連携による商品化に後押しされ、国内外に販売され、農業所得の向上と産地の活性化が図られている。</p> <p>特に、オリーブは省力化技術や農外企業による栽培などを通じ、県内全域で作付けが飛躍的に増加し、様々な関連商品の開発もあり、需要の拡大と円滑な契約に支えられた日本一のオリーブ産地に発展している。</p> <p>③ 養鶏は、卵用及び肉用鶏の改良が進み、産卵・産肉能力や卵質・肉質が向上するとともに、規模拡大や省力機械の導入により、生産コストの低減が進んでいる。また、多様な消費者ニーズに対し、讃岐コーチンの生産振興と飼料用米の利用などによる高付加価値化を通じ、消費拡大が進んでいる。</p> <p>④ 養豚は、種豚の改良や効率的な飼養管理技術の導入により、産肉・繁殖能力と生産性が向上し、コスト削減と品質向上が進んでいる。讃岐夢豚など銘柄豚の生産拡大が進むとともに、エコフィードの普及により飼料費が削減されている。</p> <p>⑤ 肉用牛は、飼育管理技術や種牛の改良により、産肉・繁殖能力と生産性が向上し、コスト削減と品質・斉一性の向上が進められている。新規参入や規模拡大による増頭が進むとともに、讃岐牛の生産振興により、経営体質の強化と安定が進められている。</p> <p>⑥ 酪農は、乳牛の改良と飼養衛生管理基準の遵守などにより、乳量と乳質の改善などで生産性が向上し、コスト削減が進められている。またコントラクターが充実し、飼料自給率が向上するとともに、飼料作物栽培の機械化やヘルパー制度の利用拡大が進み、ゆとりのある酪農経営が実現されている。</p>	

<p style="text-align: center;">本県農業・農村の10年後のイメージ</p>	<p style="text-align: center;">検 討 項 目</p>
<p>8 都市との共生・対流、快適でいきいきとしたむらづくり</p> <p>① 集落の農業者だけでなく地域や都市住民を含めた多様な主体が、活動組織を設立し、継続的な資源の保全活動、耕作放棄地の解消及び農業水利施設等の補修などを行うことにより、先人達が築き守ってきた地域固有の美しい農村景観が維持している。</p> <p>② 農村における高齢者や女性などは、その能力を生かした地場農産物の生産や加工・販売活動、農村文化の伝承活動などを通じ、自ら住みやすさを実感し、生きがいを持って活躍している。</p> <p>③ I ターン就農者や農業法人への雇用就農者などは、集落への定住が進むとともに、地域資源を活用した加工品の開発に取り組むなど、新しい風を吹き込んでいる。</p> <p>④ 県民は、都市と農村の共生・対流や市民農園での交流などを通じ、農村地域の有する特色のある多様な資源や地域農産物、緑豊かな空間、余暇活動の提供を受け、心のゆとりや安らぎを得るとともに、農村地域は交流人口の増大により活性化している。</p>	<p>○集落機能の保全</p> <p>○耕作放棄地の解消</p> <p>○農業水利施設の維持</p> <p>○地域を支える担い手の確保・育成</p> <p>○新規就農者の確保・育成</p> <p>○農村地域への定住促進</p> <p>○環境・景観に配慮した農村整備の進め方</p> <p>○グリーン・ツーリズムの普及</p>
<p>9 中山間地域等の特性を生かした生産活動の維持増進</p> <p>① 集落協定により設立された集落営農組織は、将来にわたって生産活動を維持増進し、中山間地域における農業・農村の有する多面的機能を維持するとともに、下流域の都市部住民を含めた多くの県民は、それらの持つ役割を理解している。</p> <p>② 中山間地域特有の気象条件や立地条件を生かした特色ある農業生産が、自立的かつ継続的に展開されている。</p> <p>③ 中山間地域において、豊富な地域資源を活用した加工品や郷土料理の開発、収穫・加工の体験活動などサービスの提供、観光農業、農家レストラン・民宿など農村の6次産業化が普及することにより、雇用や所得が生まれ、若者が希望を持って定住できる地域社会へと活性化している。</p> <p>④ 中山間地域において、豊富に存在する太陽光や水力、風力など再生可能エネルギーが新たに利益を生むシステムを導入するとともに、地域内の農業者は、これらの利用促進を図り、自らの経営安定・発展につなげている。</p>	<p>○多面的機能の維持</p> <p>○特色のある農業生産</p> <p>○農村の6次産業化</p> <p>○再生可能エネルギーの利用促進</p>

本県農業・農村の10年後のイメージ	検討項目
<p>⑤ 農業者はもとより地域住民は、鳥獣害対策への認識が高まり、追い払いや食物残渣の適正な処分、捕獲への理解など積極的に協力するとともに、農業者は柵や溝などの適正な設置や被害を受けにくい作物生産などに取組んでいる。</p>	<p>○鳥獣害対策の推進</p>